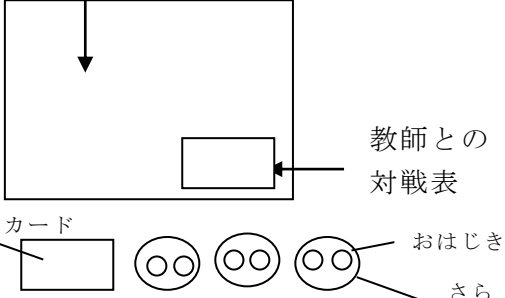
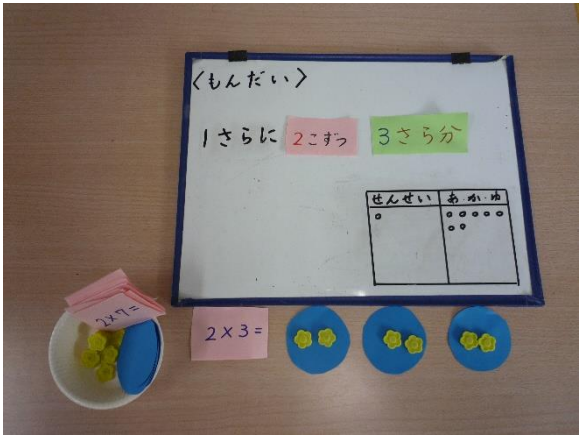


自作教具の活用事例

【作品名】 2の段の九九皿	【学校名】 日立市立田尻小学校
【活用できる領域・教科等】 算数科（かけ算）	【制作者名】 福地 典子
【制作の意図】 知的に困難を感じる児童は、数字や言葉になじめず、学習意欲が低下してしまうことが多い。新しい計算のはじめに、かけ算の意味についてしっかりと認識させて、今後の学習に結びつけたい。 2学年の児童を対象に、操作活動で1皿に2つつつ□皿分を取り上げ、教師と対戦するゲームを通して楽しく学べるようにした。	【使用の方法】 2学年児童の小集団（2～3人）で実施する。授業の始めに「2の段の九九」について具体物で簡単に説明をする。授業の最後に、教師と対戦するゲームを通して楽しく学べるようにする。
【制作上の工夫】 問題のカードはB4サイズのボードにはり、教師との対戦表も右下に書いた。お皿やお皿にのせるものは、色画用紙やおはじきなど、身近にあって使えるものを利用した。	【見取り図】 上側（問題） B4 サイズ ホワイトボード 下側（答え） 九九カード さら おはじき 
【写真】 	【使用効果と応用発展】 ○支援学級内のテーブルに置いておくことで、意識付けが継続できる。 ○具体物を操作する活動を通して、□こずつ□さら分の意味を理解することができる。 ○児童の実態に合わせて、「5の段」に替えたり、「3の段」に替えたりして応用できる。
【材料・材質・部品等】 B4 サイズホワイトボード ペン1本 □さら分のカード（1から9まで各1枚） 【一人分】×人数分 皿（9枚）・おはじき（18個）・九九カード（2の段を9枚）	